

チームティーチング参考文献

- 秋田喜代美(1992)「教師の知識と思考に関する研究動向」『東京大学教育学部紀要』第32巻 東京大学教育学部
- 秋葉昌樹(1995)「エスノメソドロジーと教育研究」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第35巻 東京大学大学院教育学研究科
- 阿部洋子・横山紀子(1991)「海外日本語教師長期研修の課題 外国人日本語教師の利点を生かした教授法を求めて」『日本語国際センター紀要』第1号 国際交流基金日本語国際センター
- アルク社(2001)「第2特集 ノンネイティブ教師のこと」『月刊日本語』5月号
- 市川保子(1989)「コミュニケーション・アプローチの中での文法のあり方 - 新教科書作成を通して - 」『日本語学』11月号 VOL.8 明治書院
- 井上亜子(1999)「スリランカにおける日本語教育の現状と課題」『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』第5号 国際交流基金日本語センター
- 太田陽子(1999)「マレーシアにおける日本語教育 現地化に向かう現状と課題」『一橋留學生センター紀要』第2号 一橋大学留學生センター
- 大平未央子(2001)「ネイティブスピーカー再考」「正しさ」への問い 批判的社会言語学の試み』三元社
- 岡崎洋三・西口光一・山田泉(2003)『人間主義の日本語教育』凡人社
- カイザー シュテファン(1995)「ノンネイティブ日本語教師の役割 異文化間教育の現場としての日本語教育を目指して」『筑波大学留學生センター日本語教育論集』第10号 筑波大学留學生センター
- 加藤英司(1991)「日本語教育でファンクショナル・アプローチは可能か 実践記録」『日本語教育』73号 日本語教育学会
- Kato, K. & Viney, J. (1995) "Working together. Key Center for Asian Language and Studies" *The University of Queensland Program*
- 加藤豊二(2004)「ベトナムにおける日本語教育史 歴史的背景を踏まえながら」『日本語教育論集』第13号 姫路独協大学大学院言語教育研究所日本語教育コース
- 金谷憲(1992)『学習文法論』河原社

- 川口義一(1996)「日本語指導の文脈化」『日本語教育・異文化間コミュニケーション 教室・ホームステイ・地域を結ぶもの』凡人社
- (2001)「日本語教育のための文法 表現者のための文法記述」『日本語学』第20巻 第3号 明治書院
- (2003)「<文脈化>による応用日本語研究 文法項目の提出順再考」『早稲田日本語研究』早稲田大学日本語学会
- (2004a)「表現教育と文型指導の融合 <働きかける表現>と<語る表現>から見た初級文法」『Journal CAJLE』第6号 カナダ日本語教育振興協会
- (2004b)「表現類型論から見た機能の概念 <働きかける表現>の提唱」『講座日本語教育』第39分冊 早稲田大学日本語研究教育センター
- 来嶋洋美・木田真理(2003)「外国人教師を対象とした日本語教授法カリキュラム - 海外日本語教師長期研修 1994-2000 調査と考察」『日本語国際センター紀要』第13号 国際交流基金日本語国際センター
- 木田真理・柴原智代・文野峯子(1998)「Non - native 日本語教師の多様性把握の試み」『日本語国際センター紀要』第8号 国際交流基金日本語国際センター
- 木田真理(2004)「外国人日本語教師研修における文法授業のあり方 - 文法シラバス整備に向けて - 」『日本語国際センター紀要』第14号 独立行政法人国際交流基金日本語国際センター
- 木谷直之・坪山由美子(2000)「研修参加者に見る非母語話者日本語教師の特性 - 1994～1998年度の調査結果から」『日本語国際センター紀要』第10号 国際交流基金日本語国際センター
- 木村政康(1996)「8章 VT法(ヴェルボトナル法)」『日本語教授法ワークショップ』鎌田修、川口義一、鈴木睦(編著)凡人社
- Gilhooly Helen(2001)「イギリスにおける日本語教育の現状報告」『世界の日本語教育<日本語教育事情報告編>』第6号 国際交流基金日本語国際センター
- グエン・ティ・ビク・ハー(2000)「ベトナムにおける日本語事情」『日本語学・日本語教育学研究 国際シンポジウム報告書』名古屋外国語大学
- グベリナ,ペタル(1994)「2 全体構造=視聴覚方式」『ヴェルボトナル法 実践シリーズ 第1巻 ヴェルボトナル法入門 ことばへのアプローチ』第三書房

- 国際交流基金 (1998) 『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・1998 年』国際交流基金
日本語センター編
- 小坏博子・木村政康・川口義一・安富雄平 (編著) (2002) 『VTS 入門』特定非営利活動法人グベリ
ナ記念ヴェルボトナル普及協会
- 齋藤アボット佳子・小宮サミーミ桂子 (2003) 「21 世紀に向けての専門能力開発：回顧的及び展望的
視点から」『日本語教師の専門能力開発 アメリカの現状と日本への提言』社団法人日本語教育学
会
- 齋藤ひろみ (1992) 「日本語学習者と教師のビリーフス - 自律学習に関わるビリーフスの調査を通し
て - 」『言語文化と日本語教育』第 12 号 お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 佐久間勝彦 (1999) 「海外で教える日本人日本語教師をめぐる現状と課題 タイでの聞き取り調査結
果を中心に」『世界の日本語教育 < 日本語教育事情報告編 >』第 5 号 国際交流基金日本語国際
センター
- 佐々木正人 (1994) 『アフォーダンス 新しい認知の理論』岩波書房
- Jorden, E. (1987) "The target-native and the base-native: making the team" *Journal of
the Association of teachers of Japanese* 21:1
- 佐藤郁哉 (1992) 『フィールドワーク 書を持って街に出よう』新曜社
—— (2002) 『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
- 佐藤学 (1996) 『教育方法学』岩波書店
- 志水宏吉 (編著) (1998) 『教育のエスノグラフィー：学校教育の今』嵯峨野書院
- 須藤健一 (1996) 『フィールドワークを歩く - 文科系研究者の知識と経験 - 』嵯峨野書院
- セリガー, ハーバート, W・ショハミー, イラーナ (著) 土屋武久・森田彰・星美季・狩野紀子 (訳)
(2001) 『外国語教育リサーチマニュアル』大修館書店
- 田辺繁治・松田素二 (2002) 『日常実践のエスノグラフィ 語り・コミュニティー・アイデンティ
ティ』世界思想社
- 谷口すみ子 (1991) 「思考過程を出し合う読解授業：学習者ストラテジーの観察」『日本語教育』第
75 号 日本語教育学会
- 當作靖彦 (2003) 『日本語教師の専門能力開発 アメリカの現状と日本への提言』社団法人日本語
教育学会
- 土岐哲 (1994) 「聞き手の国際化」『日本語学』VOL. 13 明治書院
- 長江宏 (1998) 『外国人教師』三省堂

- 縫部義憲 (1988) 「日本語教員養成カリキュラムのシステム化」 『広島大学教育学部紀要 第2部第37号』 広島大学教育学部
- (1991) 「日本語授業の<人間化>の工夫 外国語相互作用分析システムの利用」 『日本語教育』 第75号 日本語教育学会
- (2001a) 『日本語教育学入門・改訂版』 瀝々社
- (2001b) 『日本語教師のための外国語教育学 ホリスティック・アプローチとカリキュラム・デザイン』 風間書房
- ネウストプニー, J.V., 宮崎里司 (2002) 『言語研究の方法 言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』 くろしお出版
- Neustupny, J.V. (1992) “The Use of Teaching Assistants in Japanese Language teaching” 『世界の日本語教育 日本語教育論集』 第2号 国際交流基金日本語センター
- 野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子 (2001) 『日本語学習者のための文法習得』 大修館書店
- バフチン, ミハイル (著) 桑野隆 (訳) (1989) 『マルクス言語主義と言語哲学 改訳版』 未来社
- 桑野隆・小林潔 (編訳) (2002) 『バフチン言語学入門』 せりか書房
- 林さと子 (1992) 「授業分析における学習者の視点」 『日本語教育』 76号 日本語教育学会
- 平山満義 (1997) 『質的研究による授業研究 教育学/教育工学/心理学からのアプローチ』 北大路書房
- 府川昌子 (1995) 「カナダの外国語教育に関する政策と日本語 ブリティッシュコロンビア州を中心に」 『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』 第3号 国際交流基金日本語センター
- 藤田英典 (1995) 「教師の仕事と教師の文化に関するエスノグラフィー的研究」 『東京大学大学院教育学研究科紀要』 第35巻 東京大学大学院教育学研究科
- 藤長かおる (2001) 『多国籍教師研修における教授法のコースデザイン - 教師は何を共有できるか -』 『日本語国際センター紀要』 第11号 国際交流基金日本語国際センター
- 文野峯子 (1991) 「授業分析と教育の改善 客観的な授業分析の試み」 『日本語教育』 第75号 日本語教育学会
- フリック, ウヴェ (2002) 『質的研究入門 <人間科学>のための方法論』 春秋社
- 古川ちかし (1991) 「教室を知ること変えること 教室の参加者それぞれが自分を知ることと変えること」 『日本語教育』 第75号 日本語教育学会

- 細川英雄 (1990) 『日本語を発見する』 勁草書房
- (1999) 『日本語教育と日本事情』 明石書店
- (2002) 『日本語教育は何をめざすか 言語文化活動の理論と実践』 明石書店
- 町田章一・小坏博子・木村政康・増田喜治 (1994) 『言語聴覚論の輪郭』 上智大学聴覚言語障害研究センター
- マーネン, ジョン・ヴァン (著) 森川涉 (訳) (1999) 『フィールドワークの物語 エスノグラフィーの文章作法』 現代書館
- 水谷修 (1986) 「教科書の現れた言語行動」 『日本語教育』 第 59 号 日本語教育学会
- 箕浦康子編著 (1999) 『フィールドワークの技法と実際 - マイクロ・エスノグラフィー入門』 ミネルヴァ書房
- 宮原彬 (1999) 「ベトナムの日本語教育事情 最近の現状と課題」 『長崎大学留学生センター紀要』 第 7 号 長崎大学留学生センター
- 百瀬侑子 (1996) 「海外における Non-native 教師養成のための日本語 Team Teaching」 『日本語国際センター紀要』 第 6 号 国際交流基金日本語センター
- 村岡英裕 (1999) 『日本語教師の方法論 教室談話分析と教授ストラテジー』 凡人社
- (2002) 「質問調査：インタビューとアンケート」 『言語研究の方法 言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』 ネウストプニー, J.V., 宮崎里司 (共編著) くるしお出版
- 山下仁 (2001) 「敬語研究のイデオロギー批判」 『「正しさ」への問い 批判的社会言語学の試み』 三元社
- 山下秀雄 (1991) 「日本語授業の理想と現実 教育の現場をめぐる諸問題」 『日本語教育』 第 75 号 日本語教育学会
- 矢部まゆみ (2002) 「“チームティーチング” ってなに？」 『アルク地球人ムック 2002 年版 日本語で海外派遣』 アルク
- ロベルジュ, クロード・木村政康・川口義一 (1996) 『日本語の発音指導 VT 法の理論と実際』 凡人社
- 横溝紳一郎 (2000) 『日本語教師のためのアクションリサーチ』 財団法人日本語教育学会 凡人社